

<第1編 自己紹介>

第1 弁護士・映画評論家 坂和章平のプロフィール

事務所：〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目4番6号 西天満コートビル3階 坂和総合法律事務所
TEL 06-6364-5871・FAX 06-6364-5820

1. ホームページ

★事務所のホームページ <https://www.sakawa-lawoffice.gr.jp>

★映画評論のホームページ <https://www.show-hey-cinema.com/>

1949年1月 愛媛県松山市に生まれる
1971年3月 大阪大学法学部卒業
1972年4月 司法修習生（26期）
1974年4月 弁護士登録（大阪弁護士会）
1979年7月 坂和章平法律事務所開設
1984年 坂和総合法律事務所に改称 現在に至る

2. 主なプロフィール

①団塊世代、②中・高一貫受験 男子校、③学生運動、④司法試験、⑤公害訴訟（10年）、⑥都市問題・まちづくり（30年間）、⑦都市法政策 出版・講義、⑧映画評論、シネマ本出版、⑨旅行記（中国へ約20回）

3. 受賞

2001年5月 日本都市計画学会「石川賞」、日本不動産学会「実務著作賞」

4. 坂和章平の出版物（1985～2020年）

- （1）都市問題に関する著書
- （2）コラム集等『がんばったで！31年』『がんばったで！40年』『がんばったで！45年』
- （3）『SHOW-HEY シネマルーム』1～50（2002年～2022年で50冊！約3,500本を評論）
- （4）『名作映画から学ぶ裁判員制度』『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』『“法廷モノ”名作映画から学ぶ生きた法律と裁判』『ヒトラーもの、ホロコーストもの、ナチス映画大全集—戦後75年を迎えて—』

<第2編 私と映画>

第1 私と映画

1. 小学時代（1955～61年）— 東映チャンバラ映画、日活『にあんちゃん』（59年）
2. 中学・高校時代（1961～67年）
 - ①3本立て55円（洋画+日活）
 - ②学校推薦（『ベン・ハー』など）
 - ③試写会時々
3. 大学時代（1967～71年）— ①時々、名画座系（3本立て150円？） ②日活ロマンポルノ
4. 司法修習生（1972～74年）— 深夜映画+ビデオ数台（年末年始）
5. 超多忙時代（1974年からずっと）— 深夜映画+ビデオ数台（年末年始）
6. 自社ビル移転、ホームページ開設（01年～20年）
 - ①映画評論執筆開始—試写室通い
 - ②多い時は年間300本、今は年間約200本
 - ③『シネマ1～46』出版
7. 映画検定— キネマ旬報社・キネマ旬報映画総合研究所主催
 - ・『「映画検定」公式テキストブック』、『「映画検定」公式問題集』
 - ・4級合格（06年7月）、3級合格（07年1月）

第2 坂和流映画論

1. なぜ映画が面白いのか？

①人間の本性に迫る ②人生の縮図 ③知らないことを体験 ④歴史や恋愛の勉強 ⑤夢と希望、元気の素

2. なぜ映画評論を書くのか？

①書かないと忘れる ②書くことによって感動を記録 ③他者との議論のネタ
④読者にも夢と希望と元気を与える

3. 何が好きか？

①人それぞれ ②必ず好きなジャンルあり

4. 映画評論の何が面白いのか？

①映画の話題は老若男女に共通 ②人間の本音に早く迫れる。本性が早く見られる
③異なる意見、見方、感性を知る

5. こだわりがわかる！

①私のこだわりは？ ②あなたのこだわりは？ ③面白い人がたくさん……

第3 私の映画評論の特徴（ユニーク性）

1. 弁護士の視点

①法廷のあり方（法廷もの） ②各種の法律上のテーマ ③その他（危機管理のシステム）

2. 都市法政策の講義、都市問題の実践からみる視点

①都市・住宅政策 ②住宅政策 ③その過去、現在、未来

3. 歴史大好き人間の視点

中国（三国志・項羽と劉邦、近代、現代）、韓国（王朝時代、近代、現代）、ヨーロッパ（古代、中世、近代、現代）

日本（戦国、徳川、幕末～明治維新、日清・日露戦争、太平洋戦争、そして現代）

4. 文学大好き人間の視点——シェイクスピア

5. 戦争映画検討の視点

6. 日本人論追及の視点（西欧や中国との対比）

7. 恋愛大好き、ピュアな少年の視点（？）

8. エロおやじの視点

9. 時事問題検討の視点

第4 新聞連載の映画評論

1. 産経新聞『That's なにわのエンタメ』（03年10月18日～07年6月15日、月1回、全34回）

2. 大阪日日新聞『弁護士 坂和章平のLAW DE SHOW』（07年11月9日～09年12月26日、週1回、全111回）

3. 週刊法律新聞（16年12月～19年10月）

4. 日本と中国『熱血弁護士坂和章平 中国映画を語る』（17年1月～現在も連載中）

<第3編 映画の見方>

第1 洋画、中国映画、韓国映画、邦画

1. 洋画……ハリウッド型——娯楽大作が多い（アカデミー賞）

ヨーロッパ型——クソ難しい映画が多い（カンヌ、ヴェネチア、ベルリン国際映画祭）

2. 中国映画、韓国映画

中国映画、韓国映画……一点突破！ 1つの問題意識を集中的に展開！

3. 邦画

原作もの、コミックものが多い ⇒ ネタ不足

「製作委員会方式」の問題点が露呈

⇒ 最大公約数、みんなが楽しめるものを狙って、結局、平凡なTVドラマ的なものに。

⇒ その脱却の道は？

4. インド映画は歌って踊ってのポリウッドがメインだったが、近時は？

cf. 『バーフバリ 王の凱旋』（17年）（シネマ41・141頁）

第2 近時話題の中国映画、韓国映画、邦画（サンプル）、その他

1. 中国映画

・『グレートウォール』（17年）（シネマ40・52頁）

・『空海 KU-KAI 美しき王妃の謎』（17年）（シネマ41・112頁）

- ・『マンハント』(17年)(シネマ41・117頁)
- ・『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』(17年)(シネマ41・136頁)
- ・『乱世備忘 僕らの雨傘運動』(16年)(シネマ43・175頁)
- ・『芳華』(17年)(シネマ45・258頁)
- ・『SHADOW 影武者』(18年)(シネマ45・265頁)
- ・『帰れない二人』(18年)(シネマ45・273頁)
- ・『The Crossingーザ・クロッシングーPart I』(14年)(シネマ45・279頁)
- ・『The Crossingーザ・クロッシングーPart II』(15年)(シネマ45・285頁)
- ・『凱里ブルース』(15年)(シネマ46・190頁)
- ・『ロングデイズ・ジャーニー この夜の涯てへ』(18年)(シネマ46・194頁)
- ・『象は静かに座っている』(18年)(シネマ46・201頁)
- ・『巡礼の約束』(18年)(シネマ46・207頁)
- ・『オーバー・エベレスト 陰謀の氷壁』(18年)(シネマ46・227頁)
- ・『在りし日の歌』(19年)(シネマ47・32頁)
- ・『鴛鳥湖の夜』(19年)(シネマ47・198頁)
- ・『クライマーズ』(19年)(シネマ47・203頁)
- ・『薬の神じゃない!』(19年)(シネマ47・207頁)
- ・『八佰』(20年)(シネマ48・190頁)
- ・『セブンソード 修羅王の覚醒』(19年)(シネマ48・196頁)
- ・『春江水暖〜しゅんこうすいだん』(19年)(シネマ48・199頁)
- ・『羊飼いと風船』(19年)(シネマ48・207頁)
- ・『THE CROSSING〜香港と大陸をまたぐ少女〜』(18年)(シネマ48・215頁)
- ・『愛しの故郷』(20年)(シネマ49・240頁)
 - 第1話 『続・Hello 北京』(20年)(シネマ49・243頁)
 - 第2話 『空からUFOが!』(20年)(シネマ49・246頁)
 - 第3話 『最後の授業』(20年)(シネマ49・249頁)
 - 第4話 『故郷への旅』(20年)(シネマ49・251頁)
 - 第5話 『マーリアンの魔法の筆』(20年)(シネマ49・253頁)
- ・『唐人街探偵 東京MISSION』(21年)(シネマ49・255頁)
- ・『共謀家族』(19年)(シネマ49・262頁)
- ・『少年の君』(21年)(シネマ49・269頁)
- ・『こんにちは、私のお母さん』(21年)(シネマ50・192頁)
- ・『唐人街探偵 NEWYORK MISSION』(18年)(シネマ50・197頁)
- ・『狙撃手』(22年)(シネマ50・200頁)
- ・『再会の奈良』(20年)(シネマ50・205頁)
- ・『安魂』(21年)(シネマ50・210頁)
- ・『バーニング・ダウン 爆発都市』(20年)(シネマ50・214頁)
- ・『少林寺』(82年)(シネマ50・217頁)
- ・『ワン・セカンド 永遠の24フレーム』(20年)(シネマ51・186頁)
- ・『シスター 夏の分かれ道』(21年)(シネマ51・192頁)
- ・『Blue Island 憂鬱之島』(22年)(シネマ51・186頁)
- ・『崖上のスパイ』(21年)(シネマ52・226頁)
- ・『シャドウプレイ【完全版】』(18年)(シネマ52・231頁)
- ・『小さき麦の花』(22年)(シネマ52・237頁)
- ・『郊外の鳥たち』(18年)(シネマ52・243頁)
- ・『アメリカから来た少女』(21年)(シネマ52・247頁)
- ・『柳川』(21年)(シネマ52・251頁)
- ・『カンフースタントマン 龍虎武師』(21年)(シネマ52・255頁)
- ・『トウ・クール・トゥ・キル』(22年)(シネマ52・260頁)
- ・『宇宙から来たモーツァルト』(22年)(シネマ52・265頁)
- ・『少年たちの時代革命』(21年)(シネマ52・268頁)
- ・『理大囲城』(20年)(シネマ52・272頁)

2. 韓国映画

- ・『タクシー運転手 約束は海を越えて』(17年)(シネマ42・248頁)
- ・『いつか家族に』(15年)(シネマ43・194頁)
- ・『工作 黒金星(ブラック・ヴィーナス)と呼ばれた男』(18年)(シネマ45・291頁)
- ・『安市城 グレート・バトル』(18年)(シネマ45・298頁)
- ・『パラサイト 半地下の家族』(19年)(シネマ46・14頁)
- ・『人間の時間』(キム・ギドク監督)(18年)(シネマ46・101頁)
- ・『国家が破産する日』(18年)(シネマ46・232頁)
- ・『エクストリーム・ジョブ』(19年)(シネマ46・239頁)
- ・『長沙里9.15』(19年)(シネマ47・221頁)
- ・『ブリング・ミー・ホーム 尋ね人』(19年)(シネマ47・224頁)
- ・『82年生まれ、キム・ジヨン』(19年)(シネマ47・226頁)
- ・『下女』(60年)(シネマ47・270頁)
- ・『高麗葬』(63年)(シネマ47・273頁)
- ・『玄界灘は知っている』(61年)(シネマ47・275頁)
- ・『レンの哀歌』(69年)(シネマ47・278頁)
- ・『肉体の約束』(75年)(シネマ47・280頁)
- ・『KCIA 南山の部長たち』(20年)(シネマ48・226頁)
- ・『王の願いーハングルの始まりー』(19年)(シネマ48・232頁)
- ・『新 感染半島 ファイナル・ステージ』(20年)(シネマ48・236頁)
- ・『スティール・レイン』(20年)(シネマ49・320頁)
- ・『白頭山(ペクトゥサン)大噴火』(19年)(シネマ49・326頁)
- ・『偽りの隣人 ある諜報員の告白』(20年)(シネマ49・331頁)
- ・『殺人鬼から逃げる夜』(21年)(シネマ49・336頁)
- ・『逃げた女』(20年)(シネマ49・341頁)
- ・『カンウォンドのチカラ』(98年)(シネマ49・346頁)
- ・『オー!スジョン』(00年)(シネマ49・350頁)
- ・『ブルー・バイユー』(21年)(シネマ50・221頁)
- ・『ファイター、北からの挑戦者』(20年)(シネマ50・225頁)
- ・『ユンヒへ』(19年)(シネマ50・227頁)
- ・『ベイビー・ブローカー』(22年)(シネマ51・201頁)
- ・『モガディシュ 脱出までの14日間』(21年)(シネマ51・207頁)
- ・『キングメーカー 大統領を作った男』(21年)(シネマ51・211頁)
- ・『人質 韓国トップスター誘拐事件』(21年)(シネマ51・216頁)
- ・『なまず』(18年)(シネマ51・218頁)
- ・『イントロダクション』(20年)(シネマ51・222頁)
- ・『あなたの顔の前に』(21年)(シネマ51・226頁)
- ・『ハンサンー龍の出現ー』(22年)(シネマ52・276頁)
- ・『非常宣言』(22年)(シネマ52・280頁)
- ・『別れる決心』(22年)(シネマ52・285頁)
- ・『奈落のマイホーム』(21年)(シネマ52・290頁)
- ・『犯罪都市 THE ROUNDUP』(22年)(シネマ52・294頁)

異端の天才 金綺泳
(キム・ギヨン) 監督の
代表作5作

ホン・サンス監督新旧3作

3. 邦画

- ・『万引き家族』(18年)(シネマ42・10頁)
- ・『キングダム』(19年)(シネマ43・274頁)
- ・『空母いぶき』(19年)(シネマ45・62頁)
- ・『アルキメデスの大戦』(19年)(シネマ45・78頁)
- ・『人間失格 太宰治と3人の女たち』(19年)(シネマ45・131頁)
- ・『男はつらいよ お帰り 寅さん』(19年)(シネマ46・134頁)
- ・『三島由紀夫 vs 東大全共闘 50年目の真実』(19年)(シネマ46・365頁)
- ・『スパイの妻』(20年)(シネマ47・53頁)
- ・『海辺の映画館 キネマの玉手箱』(19年)(シネマ47・110頁)

- ・『朝が来る』(20年)(シネマ47・118頁)
- ・『ヤクザと家族 The Family』(21年)(シネマ48・154頁)
- ・『孤狼の血 LEVEL2』(21年)(シネマ49・154頁)
- ・『キネマの神様』(21年)(シネマ49・187頁)
- ・『偶然と想像』(21年)(シネマ50・163頁)
 - 第1話『魔法(よりもっと不確か)』(21年)(シネマ50・165頁)
 - 第2話『扉は開けたままで』(21年)(シネマ50・167頁)
 - 第3話『もう一度』(21年)(シネマ50・169頁)

4. その他

- ・インド映画も面白い。
 - 『シークレット・スーパースター』(17年)(シネマ45・304頁)
- ・フィリピン映画、インドネシア映画も面白い。
 - フィリピン・・・『立ち去った女』(16年)(シネマ41・284頁)
 - インドネシア・・・『マルリナの明日』(17年)(シネマ45・311頁)
- ・中東、イラン映画も面白い。
 - 中東・・・『テルアビブ・オン・ファイア』(18年)(シネマ46・127頁)
 - イラン・・・『人生タクシー』(15年)(シネマ40・78頁)
- ・チェコ・スロヴァキア・ウクライナ合作映画・・・『異端の鳥』(19年)(シネマ47・48頁)
- ・アメリカ・中国・香港・カナダ映画・・・『ミッドウェイ』(19年)(シネマ47・86頁)
- ・アメリカ映画・・・『シカゴ7裁判』(20年)(シネマ47・135頁)

第3 直近の話題あれこれ—映画賞の話題を中心に

1. 山田洋二監督『男はつらいよ お帰り 寅さん』(19年)(シネマ46・134頁) シリーズ50作目公開
⇒ 1969年から50年間、国民的映画になったのはなぜ?
2. 『鬼滅の刃』が大フィーバー
『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』(20年)(シネマ48・12頁)
⇒ 2020年10月16日公開
興行収入 1週目46億円 → 3週目156億円 → 4週目204億円 → 7週目275億円
3. 『万引き家族』が第71回カンヌ国際映画祭でパルム・ドール賞を受賞(2018年5月)
『万引き家族』(18年)(シネマ42・10頁)
⇒ 見どころ、論点などは、6月2日の講義(寝屋川キャンパス)でやる。
4. 『パラサイト 半地下の家族』が第72回カンヌ国際映画祭でパルム・ドール賞を受賞(2019年5月)、第92回アカデミー賞で作品賞、監督賞、脚本賞、国際長編映画賞を受賞(2020年2月)
『パラサイト 半地下の家族』(19年)(シネマ46・14頁)
⇒ 見どころ、論点などは、6月2日の講義(寝屋川キャンパス)でやる。
5. 黒沢清監督『スパイの妻』が第77回ヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞(監督賞)を受賞
『スパイの妻』(20年)(シネマ47・53頁) (2020年9月)
6. 濱口竜介監督の『ドライブ・マイ・カー』が第94回アカデミー賞国際長編映画賞(2022年3月)と第74回カンヌ国際映画祭コンペティション部門で脚本賞受賞(2021年7月)
『ドライブ・マイ・カー』(21年)(シネマ49・12頁)
7. 『コーダ あいのうた』が第94回アカデミー賞で作品賞、助演男優賞、脚色賞を受賞(2022年3月)
『コーダ あいのうた』(21年)(シネマ50・12頁)
8. 是枝裕和監督の『ベビーカー』の主演ソン・ガンホが第75回カンヌ国際映画祭で主演男優賞を受賞(2022年5月)
『ベビーカー』(22年)
9. 早川千絵監督の『PLAN75』が第75回カンヌ国際映画祭のカメラドール賞(新人監督賞)を受賞(2022年5月)
『PLAN75』(22年) 倍賞千恵子主演

第4 ウクライナ戦争を契機として注目すべき映画

- ・『アンノウン・ソルジャー 英雄なき戦場』(17年)(フィンランド映画)(シネマ45・94頁)
- ・『赤い闇 スターリンの冷たい大地で』(19年)(ポーランド・ウクライナ・イギリス映画)(シネマ47・192頁)
- ・『スティール・レイン』(20年)(韓国映画)(シネマ49・320頁)

- ・『親愛なる同志たちへ』(20年)(ロシア映画)(シネマ50・64頁)
- ・『潜水艦クルスクの生存者たち』(18年)(ルクセンブルク映画)(シネマ50・144頁)
- ・『狙撃手』(22年)(中国映画)(シネマ50・200頁)
- cf. 『ナワリヌイ』(アメリカ映画)(22年) プーチンが最も恐れた男

第5 昔の名作がデジタルリマスター版で復活

- ・『戦場のクリスマス 4K修復版』(1983年)(シネマ49・124頁)
- ・『愛のコリーダ 修復版』(1976年)(シネマ49・129頁)
- ・『マンディンゴ』(1975年)(シネマ49・133頁)
- ・『異邦人 デジタル復元版』(1968年)(シネマ49・138頁)
- ・『デッドロック』(1970年)(シネマ49・142頁)
- ・『フラワーズ・オブ・シャンハイ(海上花 Flowers of Shanghai)』(1998年)(シネマ49・146頁)
- ・『ヘカテ デジタル・リマスター版』(1982年)(シネマ49・150頁)
- ・『イングリッシュ・ペイシエント』(1996年)(シネマ50・230頁)
- ・『フォレスト・ガンブ 一期一会』(1994年)(シネマ50・233頁)
- ・『小間使の日記』(1963年)(シネマ50・237頁)
- ・『昼顔』(1967年)(シネマ50・240頁)
- ・『テオレマ』(1968年)(シネマ50・242頁)
- ・『王女メディア』(1969年)(シネマ50・246頁)
- ・『アレックス STRAIGHT CUT』(2002年)(シネマ50・248頁)

第6 中国時代ドラマ ベスト10

- ①『ミューエ 王朝を照らす月』
 - ②『鬼谷子 一聖なる謀一』
 - ③『三国志 SEACRET of THREE KINGDOMS』
 - ④『独孤伽羅 ～皇后の願い～』
 - ⑤『三国志 一趙雲伝一』
 - ⑥『コウラン伝 始皇帝の母』
 - ⑦『秀麗伝 ～美しき賢后と帝の紡ぐ愛～』
 - ⑧『麗王別姫 ～花散る永遠の愛～』
 - ⑨『王女未央』
 - ⑩『賢后 衛子夫』
- 追加①『三国志 ～司馬懿 軍師連盟～』
追加②『解憂 ～西域に嫁いだ姫君～』

第7 ナチス映画をどう考える？

- ①『ヒトラーもの、ホロコーストもの、ナチス映画大全集 一戦後75年を迎えて一』(坂和章平・2020年) VS②『ナチス映画史 ヒトラーと戦争はどう描かれてきたのか』(馬庭教二・2022年)

<第4編 映画評論の書き方>

第1 映画のジャンルは？テーマは？

1. ジャンル分け、テーマ分け

戦争モノ、法廷モノ、歴史モノ、恋愛モノ、純愛モノ、家族モノ、SFモノ、冒険モノ、伝記モノ etc.

2. テーマは？

夢、希望、勇気、冒険、愛(家族、友人、同性) etc.

3. 社会的大事件をテーマに！

- ・1955年～1975年 ベトナム戦争
- ・2001年～2021年 アフガニスタン紛争
- ・2001年9.11 世界同時多発テロ
- ・2003年3.20～2011年12.15 イラク戦争
- ・2008年9月 リーマン・ショック
- ・2011年3.11 東日本大震災
- ・2022年2.24 ロシアによるウクライナ侵攻 etc.

cf. 1939年9.1 ナチスによるポーランド侵攻

4. どんな社会問題を？

貧困、格差、暴力（団）、ヤクザ抗争、誘拐、死刑、裁判、革命、内乱 etc.

5. どんな職業を？

スパイ、軍人、ヤクザ、教師、医師、看護婦、弁護士、会社員 etc.

第2 ジャンル・テーマの大分類、中分類、小分類

1. 大分類—上記のとおり

2. 中分類

ex. 戦争モノについて—ローマ vs エジプト、十字軍 vs イスラム、第1次、第2次世界大戦、太平洋戦争、日中戦争 etc.

ex. 恋愛モノについて—若い男女の純愛、熟年の恋、同性愛、不倫、離婚 etc.

3. 小分類

ex. 戦争モノ—関ヶ原の合戦、硫黄島の玉砕、Uボート vs 駆逐艦

ex. 恋愛モノ—『愛と死を見つめて』、阿部定事件

4. 『ストーリー・オブ・フィルム 111の映画旅行』に注目！

マーク・カズンズ監督の視点で111本を評論 坂和は111本のうち35本を鑑賞済み

彼は“365日映画を鑑賞する男”で鑑賞総本数は1万6,000作品！

TVシリーズは全15章、全編900分以上という構成 映画は111本を167分で構成

第3 好きな俳優は？女優は？好きな監督は？脚本家は？

高校時代、大学時代の私は吉永小百合、オードリー・ヘップバーン etc. あなたは？

第4 映画検定とは？

映画検定 公式テキストブック（キネマ旬報映画総合研究会編）

①見るべき映画100本、②映画の歴史、③知るべき映画俳優100人、④映画の用語集、⑤映画のデータ

第5 原作は？

1. 世界文学全集

・『戦争と平和』（トルストイ）

・『赤と黒』（スタンダール）

2. 世界こども全集

・『海底2万マイル』

3. 日本文学全集

4. 日本こども文学全集

5. 中国

・『大地』（パールバック） ・『項羽と劉邦』（司馬遼太郎）

第6 歴史モノ、戦争モノは歴史の勉強が不可欠

1. この戦争を知ってる？

・関ヶ原の合戦

・南京大虐殺

・朝鮮戦争

・ノルマンディー上陸作戦

・バルジ大作戦

・硫黄島の戦い etc.

2. この人物を知ってる？

シーザー、クレオパトラ、アントニウス、スパルタクス、ナポレオン、ヒトラー、チャーチル etc.

『峠 最後のサムライ』（22年） 河井継之助とは？ 長岡藩家老 1867年 大政奉還 1868年 戊辰戦争

3. その勝敗は？その影響は？

第8 家族モノ、恋愛モノは「人間」の勉強が不可欠

1. 男女の恋愛、別れはなぜ？

2. 家族の幸せとはナニ？

3. 親子の対立、断絶はなぜ？

4. 浮気、不倫を許せる？

5. 人間の幸せとお金との関係は？ etc.

第9 一点集中型 vs 全体描写型

邦画は全体描写型が多いがそれではダメ。映画は一点集中型でなくちゃ！

第10 この映画のジャンルは？テーマは？

『シネマ 47』の 70 作、『シネマ 48』の 70 作、『シネマ 49』の 70 作、『シネマ 50』の 70 作からさまざまなジャンル、テーマを考えてみよう

第 1 1 国語力、文章力のみがき方は？

⇒ 多くの文章を読むこと、多くの文章を書くこと（語学の勉強と同じ）

第 1 2 感性のみがき方は？

⇒ 多くの経験を聞くこと、自分でも積むこと（いいことも、悪いことも？）

第 1 3 小学生の時に書いた（？）読書感想文も同じ

<第 5 編 実際に書いてみよう！>

第 1 書く前の心構えの 3 原則

- ①正直に（いいカッコしようと思ってウソを書かないで）
- ②感じたことを（誰かの真似をしないで）
- ③自分の言葉、自分の文章で（上手に書こうとしないで）

第 2 書いた後の文章チェック 3 原則

- ①大きな声を出して読んでみる
- ②もっと正確な、もっといい表現がないか考えてみる
- ③見出しをつけて、全体の文章の構成をまとめてみる